

鉾立小学校 児童の安全確保に係る対応方針地域説明会（地域）
議事録

日 時：令和5年9月27日（水）19：00～20：45
場 所：鉾立小学校特別教室棟多目的ホール
出 席 者：市長、教育長、教育次長、教育総務課長、学校教育課長
（教育総務課職員、鉾立小学校職員）
参 加 者：26名、市議会議員7名、報道機関1名

1. 開会（挨拶）

市長

鉾立小学校の児童の安全確保については、H28年に耐震診断の結果が出て、議論を経てきたが、7年の歳月が経過し、地域・保護者の皆様にご心配をお掛けしたことをまずはお詫び申し上げたい。

市長に就任して2年近くになるが、その間、鉾立小学校に対する地域の皆様の想い、保護者の方の安心安全にかける色々な想いを受け、去年は木造校舎の耐震化案を出したが否決されたため、今年度は、プレハブを建て安全確保を図ろうと提案したが否決され、非常に残念な想いである。

しかしながら、児童の安全確保は待ったなしと思っている。東南海地震もいつ起こるか分からない。そういった状況の中、安心して学校に通わせるためには、安全確保を図っていかなければならない。

今回、子どもたちの安全確保を第一に、教育委員会で案を作成した。

学校の適正規模化とは切り分けて考えている。

ご意見は色々あると思うが、事情をご理解いただき、是非ご協力いただきたい。

皆様の忌憚ない意見をお聞かせください。

2. 説明

資料に沿って説明（教育総務課長）

- ・ 前回説明会（R5.2.22）以降の動き
- ・ スクールバスで胸上小学校へ通学すること
- ・ 鉾立小、鉾立小＋胸上小の学年別想定児童数
- ・ 今後の流れ（想定）

3. 意見交換（一部文脈修正）

参加者 1

どうして最も安全な場所である学校が、8年間危険なまま放置されてきたのか見解を。

教育総務課長

ここに至るまで、8年かかったことについては申し訳なく思っている。

これまで木造校舎については、ブレスを入れる耐震案や特別教室棟を使う方がいいのではといった話、東兎中に行く話もあったと思う。様々な議論があった中で決めたものを昨年6月、今年6月の議会に上程したが実現できなかった。結果論だが、時間が経ってしまい、本来安全であるべき鉾立小学校について遅れてしまったという結果だと思う。

参加者 2

する気がなかったということだろう。やる気がなかったということだろう。

教育総務課長

する気はもちろんあった。

参加者 2

延びすぎではないか。やる気がないから延びたのでは。そうとしか捉えられない。一生懸命やったとは受け取られない。お前らは、みんなのために動こうともしない。今まで何年かかっているんだ。何の仕事をしたのか。何もせずにここまで来たではないか。お前ら銭もらってやっているんだろうが。仕事しろ。

教育次長

8年経った経緯はある。過去は分からないところだが、案を出させていた中で議論し、昨年6月に新たに木造校舎耐震化の実施設計の案を出したが否決。今年の6月にプレハブ校舎を予算計上したが否決。やろうとしたが延びてしまった。教育委員会としても進めていこうという気持ちでやってきている。その中で、2案が議会で否決となったため、申し訳なく思っている。

参加者 1

プレハブが建ってたら安全確保できる。なぜ否決されたのか。

教育総務課長

否決されたことについては、議会の採決の結果。正直何故かは把握できていない。

参加者 1

議員に聞けば良い。それを聞かないと次の案の手立てがないだろう。否決された理由があり、それを解決するために次の手段が出てくる訳で、その辺りは聞いたのか。12人反対されている。今日来ている議員も反対している人がいるのか？

いるのなら今ここで聞いて。それは言い過ぎだろうか。否決理由が分かってからなら、それでできないのならばバスとなると納得できるが、理解してくれと言われても否決理由が分からないのに、何故スクールバスか理解できない。

お金がないのなら安くすれば良いし、答申を待ってと言われるなら待てば良いし、なぜ急に階段を十段くらい飛んでいるのか。子どもの安全は当然。言わずもがな。なぜ否決されたのか。

教育総務課長

先ほども説明したが、議場での採決の結果、賛成6、反対12。

総務文教委員会の審議では、委員からの意見としては、市内の全ての子ども達が公平に安全な学習環境を確保すべきといった意見や、他校と比較し遅れているため早急に対応すべきといった賛成意見があった。

反対の立場からは、学校の適正規模検討委員会の答申を待ってから教育環境を整備すべきではないかといった意見や、建設前から将来的な施設の維持管理の懸念や利活用の検討が語られる状況があることを懸念するような意見があった。プレハブ校舎の整備に多額の費用がかかるということや、多くは適正規模化の答申を待ってから判断した方がよいのではないかといった意見があった。

参加者 1

待ってないですよ。答申は出ていない。なぜ待たないのか。ヘルメットをかぶらなければいけないくらい危ないなら、明日から特別教室棟に入れてください。命がかかっている。できるだけ特別教室棟を使用すると言っているが、今日1年生が何回時間使ったか。ほぼ来てないですよ。

鉾立小学校長

1時間。

参加者 1

1 時間ですよ。残り 5 時間は木造校舎。できるだけと言っていながらその程度。安全ですよ。プレハブ建てればすむ。否決理由を分析し、お金が高いなら安くしたらよい。そこを折衝するのがあなた達の仕事。「仕事をしない」と先ほどの方も言われていたが私も同感。すり合わせし、子どもの安全のために一刻も早くこの学校を活かして、1 年も待たずにすぐプレハブ建てればすむことだ。他の学校を直したり、道を直したり、トイレに何千万円もかけていたり。トイレを直すのに何千万もかけるのと、鉾立小 50 人の命とどちらが大事ですか、教育長。トイレに何千万、エレベータに何千万。鉾小の子ども命とどちらが大事か。こちらが先だ。もちろんトイレも大事、エレベータもいる。鉾小の子の命がかかっているのに、エレベータをやめてこちらを先にしないのか。胸上に行くことで、学校に行きたくない子がでるかもしれない。一人一人の子ども気持ちを考えているか。教育長はどう思うか。

教育長

子どもの命が最優先は当然。

参加者 1

ではお金をかけてください。

参加者 2

なぜしないのか説明を。

教育長

我々としては、経緯を踏まえ、プレハブ案も教育委員会が出している。何故否決されてどうするのかということは、我々の検討の余地はあったが、市は教育以外にも色々な施設設備がある。

参加者 2

子どもの命はいらないということか。そう言っているのと同じだ。一番優先なことから順番に仕事をしていくのが当たり前。それを放置して他のことに金を使うことはおかしい。死んでもいいということか。今まで何もなかったからたまたま良かったが。50 人だから死んでもいいとお前達は思っているのだろう。

教育長

そんなことは思っていない。

参加者 2

後回しだ。どうせ銚立はと思っているんだろう。それしか考えられない、お前らのしていることは。

参加者 3

予算が膨れあがったから否決された理由の一つと聞いているが、予算が 2 億 5 千万ということだったが、何故そうなったのか。

地区ではデマがあって、地元議員が赤いレンガをのせて、鉄骨を増やせと
いったから予算が膨れあがったという話が銚立では飛びかっ
ていて、保護者メールの中でもそういう話が出ているが、それは嘘か。

教育総務課長

赤い屋根という話は出ているが、それにより否決になったという話ではない。

参加者 4

1 億くらい上がっている理由は何か。

教育総務課長

プレハブを建てるにしても、子どもたちがそこで日中の大半を生活していくため、それなりのものを作ってもらいたいという意見が、昨年 12 月の総務文教委員会の中であった。

参加者 4

前回の説明会では、これが最良の策だと言われていたが、それから 1 億以上あがっている理由を聞きたい。元の予算のままなら可決されていたかもしれない。1 億もあがったら否決もされる。

教育次長

プレハブの設計予算については、昨年 12 月に一度示し、示した内容について、足りない等のご意見があった。ご意見をいただき修正したものが 2 億 5 千万円ほどかかると 2 月に説明した。その前にワンクッションあった。その前にご意見をいただき、教育委員会で練り直したものを 2 月にお示しした。

参加者 4

それで 1 億上がったのか。おかしい。ほぼ倍に近い。それでは可決されない。最低でもプレハブで我慢しなくてはと思っていた。今はバスしかないの

かと思っているが、はっきりしてもらわないと納得できない。

教育総務課長

まず、令和4年12月に提示した案は、プレハブ棟にトイレや保健室を追加すべきではないかといった意見があった。議会の委員会での話だが。プレハブ棟自体のグレードアップが必要ではないかという意見があった。特別棟の改修内容の変更で、職員室の移設場所を多目的ホールから閲覧室に変えること、家庭科準備室を職員室の拡張エリアにスペースを作るといった変更をかけた結果、グレードが上がり2億数千万となった経緯がある。赤い屋根によって金額が上がるということはない。全体的な見直しをかけたことによる。

参加者4

赤い屋根は瓦か。それなら金額が上がるし構造も変わってくる。

教育次長

赤い屋根の話はあるがレンガを置くとか瓦を置くとか、細かい話はない。ご希望はあったが。

参加者3

1億上がった詳しいことを教えてもらわないと。

教育次長

グレードアップした。水回りが増えると単価が上がる。グレードアップで上がる。勘案して出させてもらったのが2億数千万。

参加者1

赤い屋根はデマか。

教育次長

赤い屋根をして欲しいという話があったが、それが元でということはない。

参加者1

グレードアップの内容は何か。

教育次長

見た目がきれいになる。プレハブにもグレードがある。

参加者 4

以前、課長の説明ではプレハブのいいものだと言っていた。消防署のようないいものだからプレハブも 20 年持つと。

教育次長

それにしたから 2 億 5 千万になった。

参加者 4

最初に木造校舎 4 億と言っていた。材料高騰しているが 2 億千万でプレハブ否決された。7 回も 8 回も集まり、最終的には胸上小に行けと。それはあんまりだ。何のために来ているのか。

参加者 1

グレードアップせずに 1 億のプレハブを建てたら可決するだろう。

教育次長

総務文教委員会で、提示されて変更させてもらった。

参加者 4

スクールバスも否決されたらどうするのか。

教育次長

絶対ないとは言えないが、しっかり説明させてもらう。

参加者 4

今回 6 人賛成、12 人反対。反対の人が賛成してくれないと可決にならない。

教育次長

過半数あればよい。

参加者 5

議員に話して結論が出てこうなっているのか。

教育次長

プレハブについては、ご意見をいただき練り直した。

参加者 5

今までのプレハブや耐震化はそういう話はなしでやっていたのか。議員の考えに合わせて今回やったということか。

教育次長

皆様と色々話合いをしてきた。それを元に案を作り、議会に提出、総務文教委員会に予算を含め提示する。その中で議論してもらおう。元々あった案から子どもたちが 20 年 30 年過ごす場所ということで、水回りがあった方がいいのではないか、トイレがあった方がいいのではないか、保健室があった方がいいのではないか、もっともっとグレードアップした方がいいのではないか等の意見があり、元々の案から…。

参加者 5

ではなく、スクールバスで行くという話が、通るか通らないかという中で、多分通ると。それはもう話ができているように聞こえるが、そこまでしてやることか。プレハブも耐震化にしても否決理由も分からない中で一足飛びに統廃合に絡めてどうせなら先にやってもいいのではないかと。統廃合は複式解消として進めているが、皆様の意見とは逆の方向にいつていると思う。それと切り離すといいながら一足飛びにそこまでいく必要はない。

プレハブでなくとも特別教室棟を利用していいし、保育園をつぶさなくても運動場に建てればいいことで、複式なんだから 6 教室もいらぬ。全員入ってもプレハブで特別教室を建てれば良い。

前に市長が言われていたが、大人は向こうの校舎でも大丈夫。将来的にコミュニティで使う場合も大丈夫と。先生は職員室にいても大丈夫だと思うが、一足飛びに行くのはおかしいような気がする。

教育総務課長

この話は 27 年度から続いているが、適正規模化の話は昨年度から。これまでも要望等をいただいているが、子どもの安全安心を一番に考え、適正規模化の話とは切り離して考えて欲しいというのがある。我々もそのつもりでこれまでやってきた。結果として、昨年 6 月、今年の 6 月と建設事業の予算案を上げてきたが否決され実現できなかった。このため、建設事業が難しい中で、他に早くできる方法がないかと進めていたのが今回の説明となっている。

参加者 5

建設事業を伴わない児童の安全ということで進めていった理由は、先ほど議員反対があり、できないというふうに踏んでいると思うが、出し方を変え

るとか、プレハブではなくても木造で簡単なものでもできるし、特別教室棟に6学年全部入ることもできるし、そういう方向での検討はなしに一足飛びに行くということについては私も含め反対。できることはやってください。

また次に出して胸上に行くのも否決されるかも分からないし、簡単なものを建てる、特別教室棟に全部入るとしても否決されるかもしれない。何にしても否決を前提に議員は動いていると思う。西高東低ではないが、東はほとんどどうでもいいような状態で、市長も人口増を考えていると思うが、学校がなくなると子育て世代は一人も増えない。今現在、番田でも3軒新築している。その方々は、胸上小に行くとは思っていなかったかもしれない。昔、この地区は子育てしやすい町としてみんなやってきた。その中で耐震化云々をやり出して段々減ってきて、それだけではないが、人も少ないが、全国的なことで統廃合等は今後必要になるものと思う。ただ、適正配置・適正規模、複式がダメというところはほとんどないと思う。

学力が全てではないが、この前の学力テスト、玉野市は岡山県で最下位。もうちょっとやることやって、子どもたちがのびのびと勉強できるように。今年、銚立から岡大卒業した人達、それ以前の人、すすくと国公立大学にかなりの人が行っている。5人学級でも3人くらいは行っている。そういう面で、もうちょっと安心して、子どもたち、父兄に負担をかけないように。この8年間で地元も負担かかっていると思う。胸上に行くには、教育委員会もお金いるし、父兄、子どもの負担。朝早く起きないといけないかもしれない。自分の足の力で生きていくということを教えるべきではないか。街では電車通学とか色々あるが、そうすることが絶対ということでもないと思う。

統廃合については今後も絶対に必要だが、配置は玉野市全体を見て。物理的にどうか等。学校が増えたのは団地ができたものが多い。現状は変わってきている。よそのことを言うのはなんだが、第二日比、日比小は歩いて5分かからない。一つにしても誰も何も言わないと思う。玉野市の実情からいえば仕方ないと思う。荘内もマンモスで遠いなら、北側、高崎等は大崎へ行けば人数が増える。玉原・玉。全体で

これから建て直す学校等あると思うが、ただ経費ではなく計画的に。今まで計画的でないからお金がないということは、現市長は関係なく、一生懸命やってくれているが、そういうことが響いてきてしわ寄せになっている。全国的には統廃合すべきところはすべきと思うが、地域性とか勘案し人口増やすためにはどうするか。生徒が少ないからこうするのではなく、生徒を増やすにはどうするか、となってもらえたらいいと思う。

参加者 1

否決理由が分からないではなく、はっきりさせてくれないと前に進めない。

ここに議員に来てもらって。あるいは調査してここで説明してもらおうか。「なるほど、だからスクールバスか」と繋がらない。鉾小だけだ。危ない校舎で、危ないからスクールバスだよその学校に行って、廃校にされているのは鉾小だけだ。他の学校は全部してもらっている。危ないんです。安全を守るためにこの校舎をなんとかできないものか。理由をはっきりさせて。

教育総務課長

お答えできるのは先ほどお答えした内容が理由となる。

参加者 3

答えられないんだったら、答えられる方を呼んで。あるいは明日でも、来週の今日でももう一回しないと子どもの命守れない。ずるずる後ろに進んで。それで子どもの命が大事っておかしい。

参加者 6

せっかくオブザーバーで議員が来られているので、お話をいただいたらいいのでは。

参加者 3

それは来られてるならいいですよ。それくらいしてもらわないと理解しろと言われても理解できない。

参加者 2

6人反対している者もいるのだから、一人一人話してもらったらいい。どうせ来ている人で反対している人もいるのだから。

教育総務課職員

申し訳ございませんが、本日はオブザーバーとしてご出席していただいていますので、本日の・・・

参加者 2

それなら前に進まないぞ。そんなこと言って。

参加者 6

オブザーバーってどういう意味か。来られて発言されないなら、来なくていい。

教育総務課職員

当局と地域がどういう話をしているか立ち会っていただいているというものの。

参加者 6

お話いただけないということか。

教育総務課長

基本的には今言った流れなので・・・。

参加者 2

話してもいいという人もいるかもしれない。

教育総務課長

もし議員がよければいいと思うが・・・。

教育総務課職員

ご発言にご協力いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

議員 1

私は弱い人のためにあるのが政治。行政は弱い人のためにはできない。弱い人のために政治はある。皆様の意見を最小限お聞きしないとイケないのが私の賛成した立場。

議員 2

先ほどから予算アップの話で1億という話があったが、当局の話の中で若干違う部分があると思う。当初、昨年10月頃だったか、プレハブ校舎を建設するという話の中で、確かに1億きっていた話があった。その内容を聞くと、建設現場の仮設プレハブのような形の普通教室を作るという話の中で、昨年の12月に委員会に提示され、さすがに工事現場のプレハブでは子どもたちの学習環境としてはふさわしくないということ、トイレもない、手洗いもない、そういった中での提案があった。私も総務文教委員会に所属していたが、普通教室棟にはトイレ、手洗いがいる話をした。その中で、赤い屋根の話があったが、私が発言したのは、鉾立小は赤い屋根が校歌にもあるように、鉾立小のイメージとしてある。それを踏まえ、この特別教室棟も体育館も赤い屋根である。体育館を作るときにも、鉾立小に対する思いやりをもって、当時の教育委員会に赤い屋根にしてもらった。そういった提案をするのであれば、

銚立地区の子どもたちのことを考え、銚立地区の子どもたちのために、どうやったら学習環境が良くなるかということを中心に置いて提案をしてくださいという意味合いを持って、思いやりの中で「赤い屋根にしてくださいましたよね」という話をした。プレハブ校舎を赤い瓦にしるとか一切言っていないし、プレハブも工事現場にあるような仮設プレハブではなく、一般的なプレハブ校舎にして欲しいという提案をした。そういったことで今年の2月22日行われた説明会で説明させてもらった案となった。

それ以降、予算はその状態から若干上がった。というのが、放課後児童クラブの部屋もなかった。2月22日の内容の中には特別教室棟の教員室に対する改修工事費は入っていなかった。普通教室等から特別教室棟に移動する渡り廊下は約4千万程度必要と言ったが。

参加者 4

あのときには16メートルくらいの大きな建物に全部入っていた。最良だといった案になっていた。

議員 2

普通教室等から特別教室棟に移動する渡り廊下は約4千万程度必要と言ったが。

参加者 4

そのときに一つ大きなものになっているというから、僕は逆に小さいものを3つ建てれば安くなるのではと言った。1億も上がるわけない。最初のとおりいったら可決されて、今はもう校舎ができていた。文句ばかり言うからこのようなことになり、最悪は最終的には胸上に行けと。おかしい。

議員 2

私は賛成した。1億以上あがっているというのは誤解を生じていると思う。2月22日の説明からはさほど上がっている状況ではなかったと思う。1億いくらというのは、協議する過程の中で当初提案されたのが1億切っていた。9千万辺りだった。普通教室棟のプレハブ校舎が9千万余と記憶している。

参加者 4

安い予算で提示していたものがそれだけ上がっていたら可決される訳がない。

議員 2

最初に話があったのは 9 千万円程度のプレハブ普通教室棟だったが、その時に、トイレもなく、手洗い場もなく、工事現場のプレハブという話だったので、それでは子どもたちの学習環境にふさわしくないということで、せめてトイレ・手洗い等、一般的な普通教室棟としての整備はしてほしいという話をした結果、12 月の提案では 2 億は超えていた。2 月 22 日に市長もこの場で説明された案についても 2 億は超えていた。その説明会のときには、特別教室棟の改修費用は出ていなかった。普通教室棟のプレハブ式の校舎に対しての予算の発表はあった。

私は他の学校と同様に、鉾立小の子どもたちの学習環境を作って欲しいということで、今年の 6 月に上程された案には賛成した。

参加者 1

否決の理由が知りたい。

議員 3

議員 2 と同じ会派だが、多少誤解があるようなのでもう一度きちんとしておきます。

議員 2 が言っていた 9 千万はたたき台で、その時は工事現場のプレハブのようなものだったため、なんぼなんでも子どもの教育にはまずいのではないかということで、もう少し良いものにして 6 教室だけのものだった。1 億 6 千万くらいになった。そのときに見ると、トイレもないし、手洗い場もないので、給食のときに子どもが手洗いきれないようなのでは、廉価にするべきだといっても、手洗い場とトイレは付けるべきではと問題提起した。

議員 2 が言っていたプレハブ校舎と特別教室棟との間の屋根がなく、通路もなかったため、雨の日もあるし、色々な条件もあるので、行き来するので子どもが濡れるわけにはいかないから、屋根も付けて渡り廊下を付けるべきではないかと言わせてもらった。

そのときに 6 教室だったので、校長室、職員室、保健室等、ここの部分（多目的ホール）を切り刻んで作るようになっていたので、多目的ホールは行事をすることも多いため、なるべくなら残してやりたいということで元々予定されていた分をここの部分を校長室にして、あそこを職員室にしてもらった。コピーや教材を置くような部屋を作ったりして、少しずつ予算が上がった。

皆様がグレードアップすることで 1 億上がったから否決されるのは当然だと言うが、グレードアップしたから 1 億上がったということではない。設計変更があったから少しグレードアップして、結局、今年の 2 月の説明会の際に、1 億 6 千万だったのが、2 億 2~3 千万となったと思う。決して 1 億あが

った訳ではなく、7千万くらいアップだったと思う。

参加者 4

2億5千万かけるんだったら、木造校舎の改修工事ができるのではないか。

議員 3

結局、木造校舎の時も、2億4~5千万で否決された。

私は昨年6月も、今年も6月も、生徒の安心安全のために進めなければならぬと思っていたので賛成した立場だが、議員それぞれの立場があり、私は筋交いを入れてでも木造校舎にして、なじんでいる校舎だから活かしたいという気持ちで賛成したが、反対された人は、筋交いを入れたら死んでしまうからいけないという考えの方もいたし、改修したとしても議会で当局が10年しか寿命が延びないという発言をされたことで反対することになったと記憶している。

参加者 3

今、色々言われても分からなくなるので、プレハブが否決されたことについて今お聞きしているので、始めのプレハブは本当に誰が見ても子どもが泣くようなひどいプレハブだったのをみんなで話してちょっとよくしてもらってトイレを付けてもらったと。そこで、9千万から1億上・・・

議員 3

一番最初は1億4~6千万だったと思う。9千万が一人歩きしているが、本当は1億4~6千万だったとってください。

参加者 4

1億6千万だったら、6月に1億9千万だったんですよ。

議員 4

多分皆さんは反対した議員の私の意見を言えと言うことで、それが一番かもれない。

私は、先ほど当局から説明があった子どもの安心安全、まずは最初に東児市民センターであった会合にも傍聴に行かせてもらった。その中で、保護者の方が「一番に子どもの安心安全で、いつまでかかっているのか。早く木造校舎から出してくれ。」ということで当時の教育長並びに学校教育課へその案をすぐ出すようにということで話をした。

その出てきた案が、一番早く移動できるのは、東児中学校へ全学年を移動

してスクールバスを走らせて安全の確保を守ることが一番安全だろうと。経費も校舎の改造で済むし、プレハブではないのでちゃんとした学校の教室という環境が整い、校長室、職員室等も全部東兎中学校と別でできるということで、図面もできあがったものがあった。

2 つ目は、特別教室棟へ低学年を入れ、東兎中学校へ 4 年生以上を移動させて、通学のことを考えてそういう配置をするという 2 案が出た。

3 案として、特別教室棟を改修し、1 年生から 6 年生まで入れて、グラウンドへ職員室、校長室その他給食室等配置する案の 3 つ提示された。

鉾立小学校で何度か説明会が行われ、全て傍聴に来させてもらった。

地域の意見を聞きましょうということで、当局が集計したものを総務文教委員長として聞いたのは、7 割の方が、特別教室棟へ全員入れて、プレハブを建てて欲しいとの案があったと報告を受けた。

一番早く子どもの安心安全を守るということで、それでやって欲しいといったが、議会のため反対の意見の方もいる。その議員方を中心に 2 千名くらいの反対の意見が集められ玉野市へ提示された。それにより、プレハブを建てて特別教室棟に小学生が入る案は立ち消えになり進まなくなった。その後、申し訳ないが、私は訳あって 1 年半ほど議員を休まざるを得ない状況になったが、その間の 6 月に耐震化の案が、私は議員ではないが否決されたというのを新聞等で拝見した。この 5 月に復帰をし、今回、プレハブ棟の件については、やはり児童数の減少とその間保護者とのご意見をお聞きし、地域の方のご意見もお聞きしながら、トータル的に将来児童数も減少するため、プレハブを建てても新しいプレハブ棟で生徒がいなくなったらカフェをすとかそういった意見も議場が出たが、次の新しいプレハブをどういう風にするかという意見が建てる前から出てくるようでは、地域の方々が後から守ることも大変であること、子どもの数のこと等を考えて反対をした。プレハブ棟を建てるよりは、スクールバスで鉾立小は胸上小へ通うことができるのであれば、この案が通るのであれば、そちらを進めた方がいいのではないか。残念ながら 2 千名の署名が届かなかったら、もうここへ恐らくプレハブが建ち、小学生全員が入ることが整っていたと私は思う。ただそれは残念ながら公式な形で皆様方にご提示する前に、その案はつぶれてしまったので、実現なかったということで、今思うに残念なことだと思う。

参加者 2

スクールバスで胸上に行くという話をしているが、事故ということもあり得る。テレビでもしているが、バスが突っ込んで事故ということもある。それも安心安全ではないだろう。車で移動するということは事故があり得る。何が安心安全でできるか。言うことがおかしいことはないか。安心安全では

ない。

教育総務課長

今回提示させてもらったのは、時間はかかっているが、一番早くできる方法として、令和7年4月にスクールバスで胸上小に行く方法となる。事故はゼロではないと思うが、バス専用のプロのドライバーに・・・

参加者2

プロと言っても年寄りもよく使っているではないか。

教育総務課長

ただ、できる限りの安全対策は当然させてもらう。

参加者2

それでも事故しているではないか。安心安全ではないではないか。責任取れるのかお前達は。玉野市で責任取れるのか。それを提案するならそこまで言えや。責任とれるのか。事故があった場合。

教育総務課長

子どもの安全安心を考えていく中で、最悪のケースは考える必要はありますが、スクールバス自体も全国で走らせているので、そういった事例も踏まえながら・・・。

参加者2

全国で走らせていても事故はあるではないか。

教育総務課長

全国の事例も踏まえながら、できるだけ事故の起こらないような形で・・・。

参加者2

ないような形はできないだろうが。運転している以上はないことは100%ではない。

教育総務課長

それは我々が運転していても同じですよ。

参加者 2

それが一番安心安全で進めるのか。

参加者 1

一番早いのはスクールバスではなく、ここ（特別教室棟）へ子どもたちを来させて勉強させる。足りない分をプレハブを1つ、2つ建てる。それを補正で取れば一番早い。1億よりも安いお金ですれば否決理由をクリアできるのではないかと考える。

参加者 2

だから、ここも上手に利用すればいいんじゃないか。多目的ホールじゃなしに。子どもが来れる方法で…

教育次長

色々意見があり、100%安全というのは、立て替えにしてもスクールバスにしてもなかなか言えないと思う。

参加者 2

それなら提案する必要ない。

教育次長

なぜここで提案させていただいているかということ、まず一番始めには、令和7年4月を一番早い対応と考えている。それに向けてできるものというのは、今回提示させてもらっているスクールバスの運行によって胸上小に行くということが、7年4月1日にいけるという対応と考えている。皆様言われているように、計画を待つということであったり、新たな建設工事の提案だったりということになると、それからまた予算計上していくと、令和7年4月は必ず無理になってくる。となると、令和8年4月、令和9年4月、後ろ後ろにずれていってしまう。そういうことにならないように一番できる安全安心策として今回の提示をさせていただいたので、ご理解いただければと思う。

参加者 4

児童数の表がありますが、一切増えていないが。

教育総務課長

こちらの表は、転入転出は分からないところもあるので入っていない。住

民基本台帳で、そこで生まれた子どもたちを拾い上げて表にしているもの。実際には、転入転出があれば増えたり減ったりする。

参加者 4

3年ほど前には30人ほどだったのが毎月20人くらい。亡くなっている人も80人前後。人口は毎年1000人くらい減っている。ここだけでない、どこもだ。後閑小学校、山田小の人数は。

教育総務課長

山田小はそんなに変わらない。後閑小は全校で15人。

参加者 4

それでも存続していくのか。

教育総務課長

要望は上がってきている。後閑や山田は早くどうにかして欲しいと。

参加者 7

私が言っていることは、皆さんとは少し違うかもしれませんが、この表のことだが、20年前、ここの小学校の子どもが入ったとき、保育園3人だった。出るときは10人になった。

先ほどの方が言ったように、子育てするにはとても良い環境。20年くらい前から、80人くらいをキープしている。多くなったり少なくなったりするのはその時々で変わる。

一番残念なことは、鉾立保育園がなくなったこと。保育園がなくなったことでどんどん縮小していく。今度は鉾立小学校をきっていく。それは思うに、大きなストーリーがあったと思う。そのストーリーに合わせて、順番に、皆さんに納得されるように、どうしたらいいようにここに収まるかということを決めているように私には見える。

玉野市自体をもっといいものにしようという考えを持ったら、ここの鉾立小学校・保育園はすごくいい資源だと思う。もし、歴史に興味のある方がおられたら、鉾立小学校の鉾を立てたとか、私は良く分からないけど、金甲山に上がったらかういふのがあったとか、胸上の方良い景色だとか、そういうすごくいい資源を玉野市は無駄にしている。もっともっといい形の物を考えたら、瀬戸内国際芸術祭とか、宇野の方が盛り上がっているのだから、だからもっともっとそういう風にしたら、鉾立小学校も150年の歴史があつてすごくいいものだから、学校だけのストーリーではなくて、横の形で玉野市全体を

見てみるというのはいかがでしょうか。今日も小学校の子どもが3人ほど集まりながら学校の時間に合わせて遊んでいる姿を見たら、いつまでもそういう姿で、ゆっくり学校に行って、色々な景色・四季や虫を感じながら生きていったら私はいいと思う。学習なんですよ。心の豊かな学習と思う。考え方をちょっと考えていただけたらすごくありがたい。

参加者 8

時間が20時だったのが、延長してでも皆様方の多くの意見を聞こうということで、非常に前向きな姿勢に対して厚く御礼を申し上げたい。

市長が冒頭の挨拶の中で、子どもの安全と適正化の問題は別だという発言をなさったことは、市長になられてから、鉾立地区のことについては非常に熱心に考えていただいているのではないかと。昨年から今年の予算にいたしましても、市長が鉾立地区の人のためにどういうものが望ましいだろうかという考えた末、お一人だけじゃないかも分かりませんが、教育委員会及び特定の議員さんとも色々お話をした中で、市長が昨年の6月、今年の6月と鉾小・鉾立のためにと出してくださった議案が否決されたというのは、鉾立に住む我々としては大変残念でならない。

しかし、今後この問題をどのように進めていくのか、市長の心の内は分からないが、できるだけ当初の予定のとおり、まず文化的な価値がある鉾立小を残すということが最初の前提であった。それが、鉾立住民の気に入ったような耐震化ができなかったということで、色々な方面に話が飛んで、最近のプレハブの話になっているようですが、しかし、そのプレハブも昨年6月と今年の6月の2度も市長が提案したのが否決されたと、議員4の話があったように、それぞれの議員の立場があったかと思うが、鉾立が消えていくということは、鉾立がつぶれてしまうということに繋がるのではないかと、先ほどのお話も二、三の方からあったように、鉾小は昔から歴然とした東児島で一番すごい小学校であるということ先輩方が築き上げてきた財産は残していただきたいと思っている。皆様方のご意見はあると思うが、立場もいくらか違うとは思いますが、意見を統一して、早急に子どもの安全と鉾立地区が未来永劫に寂れることなく発展することを祈るものです。いいお知恵を出していただきたいと思う。

参加者 9

今まで何回も会議を開き、こちらの言い分を申し上げ、そちらの考えをお聞きし、積み重ねてきたのに、新聞記事で何もかも否決となって、ダブルパンチもいいところなので、これはどうしてこのようなことになるのか。市長が否決されることはあるのか。市長と議会はどちらの決定権が上なのか。市

議会は会派で人数集めをして決めて市長を踏み倒して、そんな市議会がどこにあるのか。玉野だけではないのか。このことは申し上げたいと思った。おかしいのではないか。どこでも市長を踏み倒して議会が優位にたつのか。そんな議員を選んだつもりはないんだけど。その辺をよく考えてもらいたいと思う。

鉾小は私も行ったが、誇りを持っているし、歴史がある。今の保護者が「はい、胸上。はい、無料でバスを出してください」そんなことではなくて、ここ鉾立という場所、小学校に対して、私たちは歴史を感じている。私は子どもが二人いるが、よそへ出ているし孫もここには住んでいない。しかし、鉾立小のことを考えると、色々な問題が浮かび上がってくるので、私の原点は鉾立小学校の評議員会が元で、今こうして物を言わせてもらっているが、この誇りを無駄にして欲しくない。人数なんかお金なんかで決めて欲しくないという思いでいっぱい。

胸上小に行くにしても、胸上小に鉾立は居候しているわけではない。胸上と鉾立小は同等。学校名を変えて、東兎中学校があるのだから、例えば東兎小学校とか、他に良いのがあればですが、胸上に間借りして形見の狭い思いをするような合流の仕方はやめて欲しいと思う。私はとても鉾立に愛着があるし、歴史を感じている。そんな簡単なことで決めるのはおかしいのではないかと思う。

参加者 10

鉾小のすぐ前に家がある。校長が毎朝子どもたちを出迎えているが、中には遅く来る人もあって、校長先生がずっと待って連れて行かれている。そういうのはスクールバスだと遅れてきたら間に合わないし、スクールバスで行けなかったらいいかと不登校にならないかと思って、細かい対応ができているのが、スクールバスになったらどうなるのかなと心配している。

教育総務課長

スクールバスになった後に、ご心配のあたりのことはこういった形で対応できるかは当然に考えていく問題だと思うので、学校側と連携しながらそういった状況をなくすように考えていきたい。

参加者 10

細かい対応ができておられるので、子どもも安心して行かれているので、できればバスでない方が良いのはいい。

参加者 2

今日の出た意見をどうするのか。あんたらこの意見をどうする？ここで出た意見はどうするんですか、と聞いている。

教育総務課長

様々なご意見をいただいているが、月曜日に保護者ともお話をさせていただき、今回の、令和 7 年 4 月からスクールバスで胸上小学校に行く話をさせていただいた。その中では特別な反対の意見はなかったので、そちらの方向で、一番早い形でと考えている。

参加者 1

今日は？反対がなかったということか。

参加者 2

反対するぞ。わしは。スクールバス反対。

教育総務課長

ご意見としては、お伺いしたいと思います。

参加者 2

それは、話と関係なしに進めるということだろう。早く言えば。はっきり言うてごらん。話関係なしにスクールバスで進めるということだろう。話関係ねえってことじゃないか。

参加者 3

保護者の説明会で不思議だったのは、バスで通学することに対しても、胸上小に吸収されることに対しても、心配に思っているという声がほとんど聞こえなかったこと。

保護者の中には、地区住民が木造校舎にこだわっているから耐震化されずにこんなことになったとか、先ほど出たが、義務教育学校？を阻止したからできなかったと。義務教育学校なんてとんでもない話だったからちょっと違うが、そう思っている方が保護者の中にはいて、やっとバスに辿り着いたみたいなおことで喜ばれている人がいるので、保護者は学校の中のことはあまり分からないし、くっついてどうなるかなんてあんまり想像できないので、市教委の提案を受けて、玉野市がきっと私たちの子どもを健やかに育ててくれると信じてるんですよ。だから、胸上小にバスで団体で行っても、楽しく明るく過ごせるから連れて行って欲しいと思っているんですよ。

もし、これが通ったとたら、決して子どもが一人でも悲しんだり苦しんだりするような状況を作らないことをここでお約束ください。もしこの案が通ったらですよ。

参加者 2

不登校になったらどうする？バス行かん、胸上行かんっていう子がでたらどうする？

参加者 3

保護者は期待して信頼していると思う。そして、地区の者が反対したからこんな目にあったと思っている人もいるので、もしそうだったらそれは違うと思う。この8年間、自分たちのことではなく、子どもたちや地区のことを思って、地区に学校を残したいと思ってここまできて、最後の最終の案がこれだったので、悲しみをどこに下ろすかという感じになっているが、なったら仕方ないので、保護者も子どもも絶対に苦しめないで。それはお約束ください。もちろん反対ですよ。

参加者 2

不登校になったらどうする。胸上小に行きたく無いと言ったらあんたらどうする？

教育次長

仮定での話はなかなか難しいが、胸上小に行くということで、保護者の意見等を聞きながら進めていきたいと考えている。

参加者 2

だから、そういう（不登校が）出た場合どうするのか。

教育次長

胸上小でしっかり教育ができる、安心して教育できる、しっかり育ててくれると、教育委員会の方で…

参加者 3

胸上小の中では、こちらは受け入れる方だから、全然関係ないような感じで言われているようだがそれはいいのか。

教育次長

胸上小の方は、日を変えて説明する。

参加者 3

いや、先生達ですよ。

教育次長

先ほどの説明もあったが、令和6年度は胸上小と鉾立小の児童の交流や色々なやり取りの中で、先生方も情報交換していってもらえると思っている。しっかりやっていきたいと思っているのでご理解いただきたい。

参加者 5

胸上小の校長に聞いたところ、不登校が6名いるように聞いている。そういう中に少人数で入っていく、ましてや時間もかかる。こども園での幼なじみの人もいるかもしれないが、そういう中に入って、先生のことを言うとあれだが、胸上小は荒れた状態のように聞いている。そういう中にスクールバスで通わずと、常に朝から危険もついてくるし、当然安心安全ではないと思う。どうしてもスクールバスという案でいくというなら、今日の説明会がなんだったか分からないが、今即答できないにしても検討していただくことはできないのか。

市長、新聞に以前にも書かれていたが、丁寧な説明で地区の了解を得て進めていくということが、今回はいきなりということで、そういう原点に戻ってもらいたいと思う。議員もおられて通らないことがずっとあったわけで、最後の最後という感じでやっておられるかも分からないが、居直ってでもその当時の心境に戻って頑張っていただけたらと思う。

先ほど議員4からもあったが、そのときは私が鉾立小を廃校とせず存続することを求める要望書ということで、2100名の署名を集めて前市長に提出した。そのときに、市長も議員4も廃校にしませんとはっきり仰った。それが引き継がれているかどうか分からないが、その後の回答もなしに今に至っている。その時は廃校にしないと言われた。石島分校があったが、最後の一人まで行った。今まで教育長で統廃合すると言った教育長は一人もいない。現在では通用しないと思うが、残すべき所、統廃合すべき所、はっきり見直しではないが、建て替え等もあるし、そういった面も考慮してやってもらいたい。ここで少々のお金をかけたら50年は持つと思う。

コミュニティの関係で人口増やすに当たっては、学校は中心となるべきところであって、それがなくなると子育て世代はほとんど来ないと思う。そういう面で、人口増やす手立てとしても頑張っていく必要があると思う。今日

結論がでないにしても、何がなんでもスクールバスでという考えは、変えて欲しいということではないが、検討する余地はないか。

市長

先ほどから否決の理由や、一足飛びにバスになるのはどうか等のご意見をいただいた。

否決の理由については、私も事前に何人かの議員にお願いしたりしたが、4月に市議会議員選挙があった。本来なら賛成の議員が引退されたり、それまでに説明していたことが繋がらなかったりした面があったかと思う。新人議員にもお話ししたが結果的にはご理解いただけなかった。私の力不足だったが残念な思いをしている。一足飛びにバスというのは、私も思った。急だなど。ただ、これをしないと、バスを準備するにも時間がかかる。今からやっても令和7年4月からになってしまう。統廃合あるいは適正規模化の決着がついてからという意見もあったが、答申が出るのが年末、計画づくりに半年、1年、もっとかかるかもしれない。それを待っている間に、安全安心の問題が置き去りにされてしまう。

そういったことで、教育委員会はバスが一番早いという話もあり、私も同意せざるを得ないかなということで今回の説明会となった。

説明については、しっかり丁寧にしていこうと申し上げ、保護者と地域とそれぞれ説明会をすることとした。市の対応で説明不足や、ちぐはぐな部分があったかもしれないが、議会对応とか丁寧にやっていると、また賛成が得られないということになってはいけないため、そちらへの説明を先に行った。それが結果的に新聞に先に出て地域が遅れた。そこは議会对応を丁寧にやっていくということでご理解いただきたい。

これを変える気はないのかということであるが、全くゼロではないが、基本的にはこの方針でいかせていただきたいと思っている。

私も内心忸怩たるものがあるが、建物どうこうで大きな予算を使って建てることは議会では了承得られないことがはっきりした中で、おかれている手段としてはバスで通学しかないと思っている。

反対意見があるのは承知している。行政や政治は全ての人が賛成は難しいと思うし、丁寧に説明したいが、方針を決めたらその方針に沿ってどういう風にうまくやっていけるかと思っている。

鉾立地区は私も良いところと思っている。観光面では大きな可能性があると思っている。観光面では東地域に力をいれようとやっている。こちらにスポットを当てたようなPRもできると思っているし、新しい人も交流が広がって、新しい人が入っていくということに繋がればと思っている。東地域を盛り上げていく手段は色々あると思うので、ご理解ご協力いただきたい。

参加者 1

一つだけすみません。先ほど後ろの方が、子どもたちが健やかに育つように約束してくださいと言われた。それだけは約束してください。

4 閉会

教育長

皆様からいただいた意見、貴重な意見、学校を思う意見、当然だと思ふ。これまでの経緯、今日の説明に当たっての皆様のご思いや意に反するとは我々も承知している。

ただ、今、適正規模・適正配置とは切り離してということで話をさせてもらっているが、適正規模・適正配置についても、検討委員会をしているが、市内に14の小学校、7の中学校があるが、昭和のピークの頃からいうと、今は児童生徒数は3分の1以下になる。これから20年弱でこれから5分の1になる。ということは小規模の学校が決して悪いことは全然ないし、複式が絶対悪いか成績が悪いかということそうということはないが、これからの教育を受ける子ども達にとって、色々な可能性と選択肢を減らすことは間違いないと私は思う。

その上で、鉾立については、何度も先ほどから説明があるが、木造校舎の耐震案、プレハブ案が否決されたということで、安全安心をとということになれば、教育委員会では、やはりできるだけ早く、胸上小へということで今回の案を提案させてもらった。もちろん、大反対というの分かる。参加者1が言われたように、胸上小行って、学校どうなんだといったときに、正解はないと思う。ですが、これだけ小規模化した中で、一緒にするのであれば、胸上小に行って良かったと言われるような教育ができるように、児童・生徒・保護者・地域・教育行政、みんなで知恵を絞って、一緒にして良かったと言えるような教育を全力で進めていきたい。ここでご理解いただきたいといっても、ほとんどの人に理解してもらえないだろうが、一方で、早く一緒にして欲しいという意見も我々は聞いている。その中で色々計画を立てているので、是非、今回提示した案で進めていきたいと思っている。そこは是非ご理解ご協力いただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。